

# 日本初のプロアドクス属カメ化石について

プロアドクス属（カメ目・アドクス科）として国内初（世界で2例目）となるカメ化石が、福井県勝山市北谷町から発見されました。

令和3年8月に、福井県立恐竜博物館の第四次恐竜化石発掘調査において発見されたもので、来たる1月25日（土）の日本古生物学会において発表されます。

## 1 発見された化石

プロアドクス属（カメ目・アドクス科）の甲羅化石

大きさ：約18cm×19cm×3cm

化石から推定される甲長は約27cm

## 2 経緯

この化石は令和3年8月に、勝山市北谷町の恐竜化石発掘現場（手取層群北谷層：約1億2万年前）から、甲羅の後半部がつながった状態で発見されました。福井県の発掘現場では多数のカメ化石が見つかりますが、その多くはバラバラになった状態であり、今回のようにまとまった状態での発見は珍しく、当時のカメの全貌を解明するためにとっても重要な資料となります。この甲羅化石を詳細に検討した結果、アドクス科のプロアドクス属であることが判明しました。

## 3 化石の特徴

プロアドクス属の化石は非常に珍しく、これまで韓国の同時代（前期白亜紀）の地層から1点発見されているのみで、今回の発見は日本初（世界で2例目）となります。

プロアドクス属は、アドクス属よりもやや原始的なカメ類とされていますが、今回の化石は、韓国産のプロアドクス標本よりも派生的と考えられる特徴を示しており、アドクス科カメ類の形態進化を解明する上で非常に重要な資料となることが期待されます。

※アドクス科：中生代ジュラ期末から新生代始新世にかけてアジアと北アメリカ大陸に生息していた半水生のカメ類です。主に後期白亜紀のアジアと北アメリカで繁栄しました。日本では、北海道、岩手県、石川県、福井県、徳島県、福岡県、長崎県、熊本県など全国各地の白亜紀の地層からアドクス科の化石が発見されています。原始的なスッポンの系統（汎スッポン類）で、スッポン科と比較的近縁なグループですが、その姿や生態はむしろイシガメやヌマガメのような一般的な半水生カメ類に近いものでした。

#### 4 学術的意義

(1) アドクス科は、福井県の発掘現場から最もよく見つかるカメ類で、これまでアドクス属（アドクス科を代表する派生的なカメ）の存在は確認されていましたが、今回の発見により同じアドクス科において異なる2種類のカメ類が共存していたことが明らかとなりました。

(2) アドクス属は、甲羅表面の鱗パターン（亀甲模様）のうち、甲羅後半の周縁部の鱗（縁鱗板／縁甲板）が中心に向かって著しく伸長するのが最大の特徴になります。プロアドクス属ではその周縁部の鱗の伸長が一部に限られています。

福井産の標本は韓国産の標本に比べて、より多くの範囲で顕著な伸長が見られるため、より進化的（派生的）な種である可能性が考えられます。

(3) 今回の発見は、白亜紀のアジアと北アメリカで繁栄したアドクス科カメ類の初期の形態進化を解明する上でも重要な資料となります。

#### 5 学会発表

名 称：日本古生物学会 第174回例会（オンライン）

開催期間：令和7年1月24日（金）～ 26日（日）

発表日時：令和7年1月25日（土） 午前11:15～12:15（口頭発表）

演 題：「福井県勝山市の下部白亜系手取層群北谷層より産出した新たなアドクス科カメ類」

発 表 者：藪田哲平（福井県立恐竜博物館）

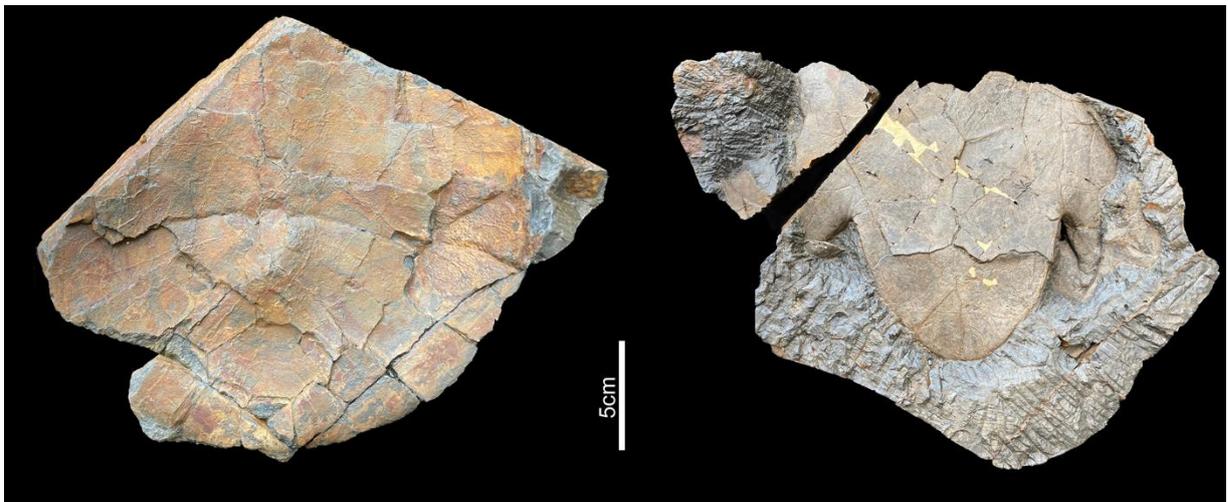
柴田正輝（福井県立大学恐竜学研究所／福井県立恐竜博物館）

#### 6 展示公開

場 所：福井県立恐竜博物館 本館1階 福井の恐竜コーナー

期 間：令和7年1月26日（日）～ 4月8日（火）

#### 7 参考画像



プロアドクス属の化石

(左：背甲、右：腹甲)